



デュアルレンズピープルカウント ネットワークカメラ

型番：IP-P300PC-AI2

設置要件・設定マニュアル（技術資料）



前書き

このマニュアルは、デュアルレンズピブルカウントネットワークカメラ（以下「カメラ」）の設置および設定について主に紹介し、人数カウント機能を効率的に利用できるようにご案内します。

改訂履歴

バージョン	改訂内容	リリース時期
V1.0.0	初版リリース	2026年10月

目次

前書き	1
1 概要	3
1.1 はじめに	3
1.2 機能	3
1.3 製品概要および設定フロー	4
2 現地調査および設置	5
2.1 人数計算	5
2.2 設置環境要件	5
2.2.1 設置シーン要件	6
2.2.2 推奨設置シーン	6
2.2.3 設置方法	8
2.2.4 設置高さ	8
2.2.5 設置角度	8
2.2.6 検出有効範囲	9
2.3 顔検出／IVS	11
3 初期設定および詳細設定	12
3.1 事前準備	12
3.2 人数カウントの設定	12
3.2.1 AI 機能の設定	12
4 よくある質問	27
4.1 人物を検出してもアラームが作動しない	27
4.2 カメラの設定が自動的に初期化される	28

1 概要

1.1 はじめに

本マニュアルは、デュアルレンズピールカウントネットワークカメラの設置および初期設定について説明します。

本カメラは、店舗や商業施設、オフィス、公共施設など、人物の通行状況や混雑状況の把握を必要とする環境に適しています。

AI 映像解析により、ライン通過人数カウント、エリア内人数カウント、待ち行列管理に対応しています。計測した人数や滞在状況などのデータは統計レポートとして確認でき、混雑状況や施設の利用状況の把握・分析に活用できます。また、設定した条件に応じてアラームを発生させることができます。

1.2 機能

本カメラは、以下の機能に対応しています。

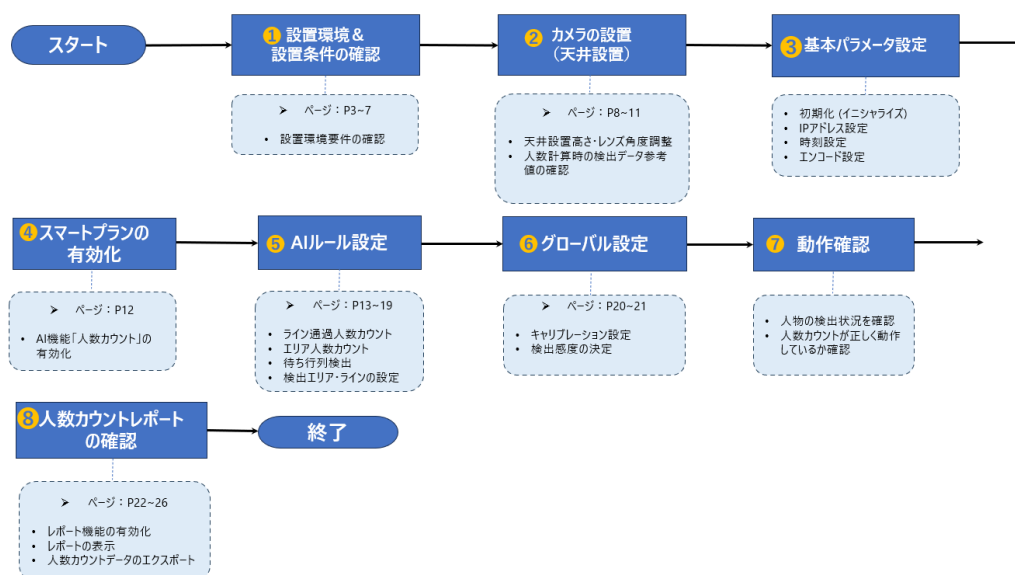
機能	説明
設置高さ自動適応機能	カメラの設置高さや設置角度に応じて調整することで、天井設置時の人数カウントの検出精度を向上させます。
ディープラーニングによる高精度な検出	GPUチップを内蔵し、ディープラーニングアルゴリズムに対応しています。これにより、対象の検出精度を向上させます。
AI機能の切り替え	AIリソースを、人数カウント／IVS（周辺保護）／顔検出の各機能間で簡単に切り替えることができます。
トリプルストリーム(ストリーム能力数：3)	3系統の映像ストリーム配信に対応しています。
低照度環境でも高画質な映像を撮影	高性能なStarlight対応 4MP 1/3インチ CMOSイメージセンサーを採用し、暗い環境でも高精細な映像を撮影できます。
最大4MPの高解像度映像に対応	最大4MP（2560 × 1440）／25fpsの映像出力に対応しています。
H.265映像圧縮方式に対応	高い圧縮効率を持つH.265に対応し、映像品質を維持しながら、ネットワーク帯域や保存容量を効率的に使用できます。

1.3 製品概要および設定フロー

- 表は製品の参考概要です。製品の詳細な仕様については、弊社のホームページの製品情報からご参照ください。
- 設定フロー（設置要件確認含む）は「図1-1」を参照ください。

型番	外観	製品名	特徴
IP-P300PC-AI2		4MP IR AI デュアルレンズ ピープルカウント ネットワークカメラ	<p>1. 設置高さ適応機能 設置高さや設置角度に応じて調整できる設置高さ適応機能を搭載しています。これにより、真下撮影時の人数カウントにおける検出性能の向上を図ります。</p> <p>2. AI機能の切り替え 人数カウント、IVS（インテリジェント映像監視）、顔検出など、使用するAI機能に応じてAIリソースを切り替えることができます。</p> <p>3. ディープラーニング対応 GPUチップを内蔵し、ディープラーニングアルゴリズムに対応しています。</p> <p>4. 低照度環境に対応した撮像性能 高性能な4MP 1/3インチ Starlight CMOSイメージセンサーを採用し、低照度環境でも鮮明な映像を撮影できます。</p>

図 1-1 ： 設定フロー



2 現地調査および設置

2.1 人数計算

本章では、本カメラの人数計算機能について、設置場所および設置条件について説明します。

2.2 設置環境要件

AI 機能を使用する前に、以下の要件を満たしている必要があります。

表2-1 : 設置環境要件

No.	項目	要件	備考
1	照度	撮影範囲内の人物が明瞭に映り、頭部や肩が確認できる十分な明るさを確保してください。十分な明るさを確保できない場合は、補助照明などを使用してください。	照度が不足すると、AI検出性能が低下する場合があります。
2	設置環境	障害物による遮蔽、頻繁な明るさの変化、逆光、強い直射光が発生する環境は避けてください。	人物の頭部や肩が他の人物や障害物によって隠れない環境を推奨します。
3	設置高さ	推奨設置高さ： [最低3.0 ～ 最高5.0m]	実際の設置環境に応じて調整してください。撮影対象がAIアルゴリズムによる検出に必要なピクセル条件を満たす必要があります。
4	設置角度	真下方向の監視(垂直角)：90° 斜め下方向の監視(傾斜角)：30°～80°	原則として、撮影角度が大きいほど人物を検出しやすくなります。映像が水平になるよう調整してください。
5	人物の通行方向	人物の移動方向ができるだけ一定となる場所への設置を推奨します。	人物が複雑に移動したり、検出エリア内で頻繁に方向転換したりする環境では、カウント精度に影響する場合があります。

2.2.1 設置シーン要件

2.2.2 推奨設置シーン

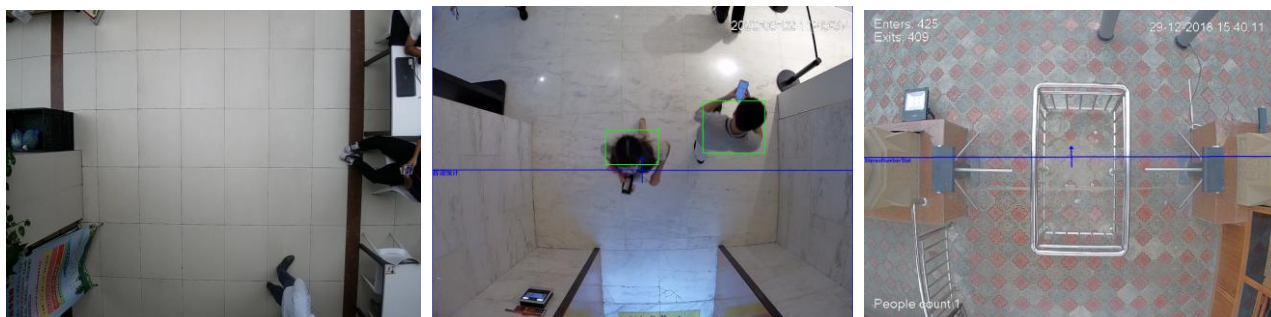
人数カウント機能には、ライン通過人数カウント、エリア内人数カウント、待ち行列管理の3種類があります。

ライン通過人数カウントでは、設置環境に応じて真下方向の監視（撮影角度：90°）または斜め下方向の監視（撮影角度：30°～80°）を推奨します。

エリア内人数カウントおよび待ち行列管理では、人が密集する環境で人物同士が重なり、検出対象が遮られる影響を抑えるため、真下方向の監視（撮影角度：90°）を推奨します。

以下の図は、ライン通過人数カウントにおける代表的な設置例を示したものです。

図 2-1：真下方向の監視（撮影角度：90°）の設置例



左から、屋内通路、出入口、セキュリティチェック用通路

図 2-2：斜め下方向の監視（撮影角度：30°～80°）の設置例



左から、屋内通路、出入口

以下の図は、エリア内人数カウントにおける代表的な設置例を示したものです。

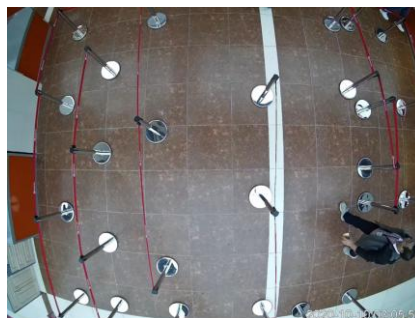
図 2-3：真下方向の監視（撮影角度：90°）の設置例



左から、銀行のセルフサービスエリア、窓口エリア

以下の図は、エリア内人数カウントにおける代表的な設置例を示したものです。

図 2-3：真下方向の監視（撮影角度：90°）の設置例



食堂の待ち行列エリア

2.2.2.1 非推奨設置シーン

以下のようなシーンでは、人数カウントの検出性能に影響する可能性があるため、設置を避けてください。

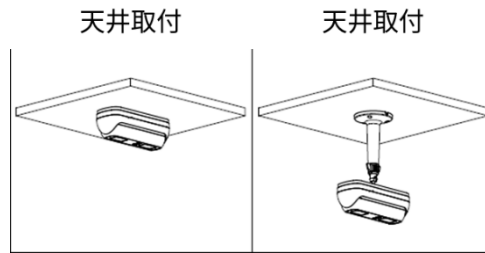
- カメラの設置位置が高すぎる環境
- 高所から人物を見下ろすような環境

図 2-4：非推奨設置シーン



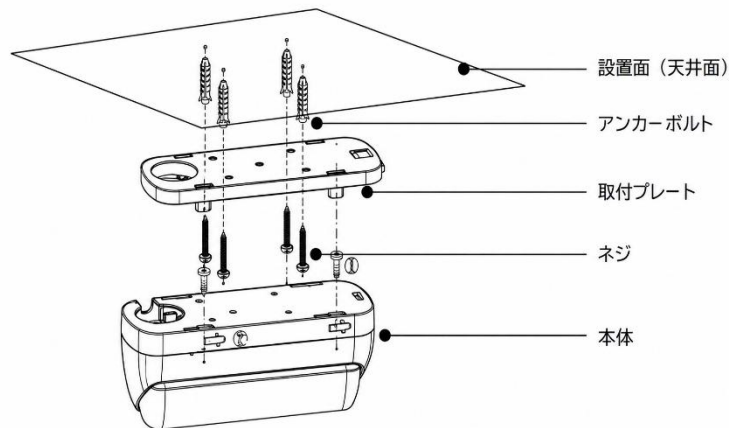
2.2.3 設置方法

図 2-5 : 設置方法



本カメラは天井への取り付けに対応しています。斜め下方向を監視する場合は、カメラ本体を傾けて設置するのではなく、レンズの角度を調整してください。

図 2-6 : 設置構造図



2.2.4 設置高さ

人数カウントなどの AI 映像解析機能を使用する場合、実際の設置環境に応じて、カメラの設置高さを調整してください。

本カメラの推奨設置高さは [3～5 m] です。



撮影対象の人物が、AI で正しく検出できる十分な大きさに映るように設置してください。

2.2.5 設置角度

人数カウントなどの AI 映像解析機能を使用する場合、設置環境に応じてレンズの撮影角度を調整してください。

撮影角度は 30°～90°を推奨します。レンズが地面に対して真下を向く 90°の場合は「真下方向の監視」、レンズと水平面との角度が 30°～80°の場合は「斜め下方向の監視」となります。

また、撮影対象の人物が AI で正しく検出できる十分な大きさに映るよう、撮影角度を調整したうえで、映像が水平になるように必ず確認してください。

2.2.6 検出有効範囲

- 真下方向の監視（撮影角度：90°）の場合、検出有効範囲は長方形になります。
- 斜め下方向の監視（撮影角度：30°～80°）の場合、検出有効範囲は台形になります。
- 斜め下方向の監視では、カメラに近い側の最小検出距離は人物の足元まで映像内に収まる位置を基準とし、カメラから遠い側の最大検出距離は人物の頭部が映像内に収まる位置を基準とします。また、人物の全身が映像内に収まり、有効に検出できる範囲となるように設定してください。

2.2.6.1 検出有効範囲の図

図 2-7 ： 真下方向の監視

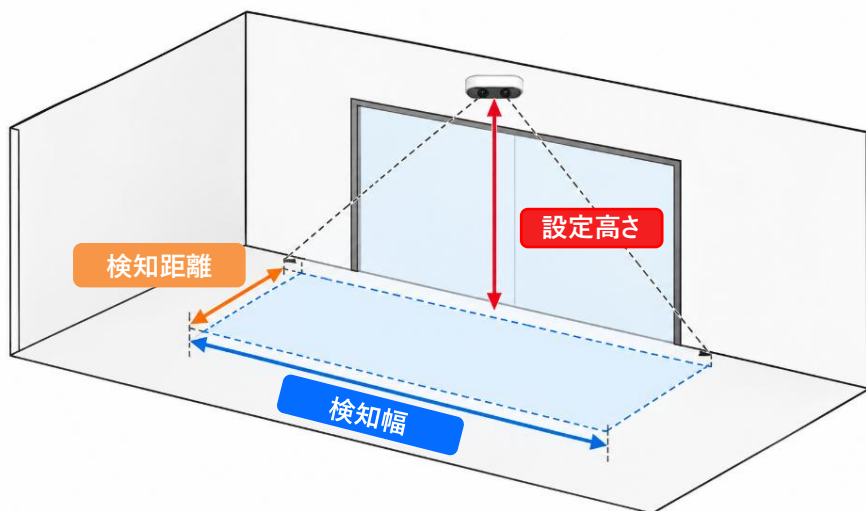
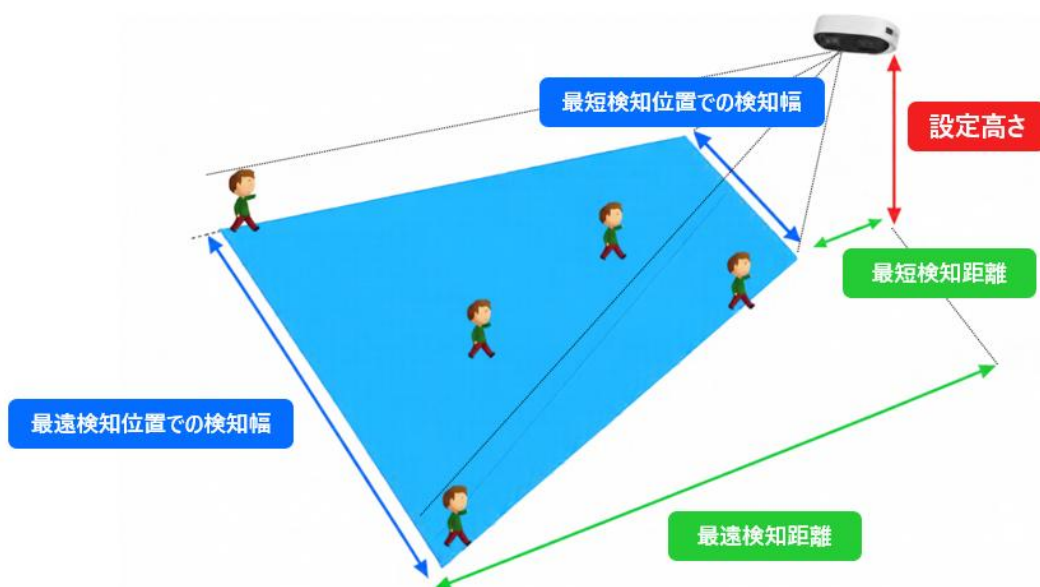


図 2-8 ： 斜め下方向の監視



2.2.6.2 検出有効範囲の参考値

本マニュアルに記載している警戒データは、真下方向の監視（垂直角）および斜め下方向の監視（傾斜角）の設置シーンを前提として提供されています。

それぞれ「表2-2」および「表2-3」を参照してください。

実際の設置環境がこれらの条件と大きく異なる場合、または設置高さや角度が想定範囲外となる場合は、以下のデータを参考に、警戒距離や警戒幅のおおよその増減（正負の偏差）を推定してください。

注意事項

照明条件による影響

次の表に記載されている数値は、十分な明るさが確保されていることを前提に検知範囲を算出しています。

実際の設置環境で照度が不足している場合、表に記載されている数値に近い検知性能が得られないことがあります。

設置環境による影響

AI 検知性能は、カメラの設置条件や周囲の明るさなど、さまざまな要因によって変化します。

設置環境や照明条件が適切でない場合は、カメラの設置位置や撮影方向を調整したり、補助照明を追加したりすることで、検知性能の改善が期待できます。

ただし、設置環境や照明条件を改善しても、検知性能が十分に得られない場合があります。そのため、実際の設置環境で検証を行い、その結果を基準として判断してください。

検知範囲データについて

次の表に記載されている数値は、参考値です。

実際の設置環境や使用条件が異なる場合は、現地での検証結果を優先してください。

表2-2 真下方向の監視時における、検知範囲データ（対象人物：肩の高さ 1.5 m、肩幅 0.375 m）

型番	焦点距離 (mm)	設置角度 (°)	設置高さ (m)	水平方向の検知幅 (m)	垂直方向の検知距離 (m)
IP-P300PC -AI2	2.8	90°	3	2.38	1.34
			3.5	3.13	1.76
			4	3.85	2.16
			4.5	4.55	2.56
			5	5.22	2.94
			5.5	5.87	3.3
			6	6.5	3.66

表2-3 斜め下方向の監視時における、検知範囲データ（対象人物：肩の高さ 1.5 m、肩幅 0.375 m）

型番	焦点距離 (mm)	設置角度 (°)	設置高さ (m)	最短検知 距離 (m)	最短検知位置で の検知幅(m)	最遠検知 距離 (m)	最遠検知位置で の検知幅 (m)
IP-P300PC -AI2	2.8	30°	3	1.16	2.74	8.17	12
			3.5	1.59	3.57	8.35	12
			4	2.04	4.35	8.53	12
			4.5	2.5	5.09	8.71	12
			5	2.99	5.78	8.98	12
			5.5	3.5	6.4	9.1	12
			6	3.94	7.22	8.86	12
	2.8	60°	3	0.16	2.4	2.08	4.04
			3.5	0.22	3.04	2.64	5.07
			4	0.29	3.65	3.19	6.04
			4.5	0.35	4.25	3.72	6.97
			5	0.43	4.83	4.24	7.85
			5.5	0.59	5.92	5.24	9.48
			6	0.68	6.44	5.72	10.22

2.3 顔検出／IVS

本カメラは、顔検出および IVS（周辺保護）にも対応しています。

各機能の設定方法については、それぞれの設定マニュアルおよび設置・調整マニュアルを参照してください。

3 初期設定および詳細設定

3.1 事前準備

本章では、初期化後に実施するプラグインの整理、ブラウザの確認、および各機能の設定方法について説明します。

初期設定および詳細設定を行う前に、以下の作業が完了していることを確認してください。

詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

- カメラが電源に接続され、正常に起動していることを確認してください。
- カメラの初期化（イニシャライズ）が完了し、基本設定が完了していることを確認してください。
- 使用するブラウザのプラグインを整理してください。
（ブラウザのキャッシュをクリアし、カメラ関連のコントロールを削除します）
- 以下のフォルダーが存在する場合は削除してください。
C:\Program Files\¥webrec
C:\Program Files (x86)\¥webrec
- 本カメラに対応したバージョンのブラウザを使用して、カメラの Web 画面にログインしてください。

3.2 人数カウントの設定

本章では、人数カウント機能の種類および各機能の概要・設定方法について説明します。

人数カウント機能には、以下の 3 種類があります。

- **ライン通過人数カウント**
設定したラインを通過する人物をカウントします。カウントした人数が設定値を超えると、アラームが発生します。
- **エリア内人数カウント**
検出エリアを設定し、エリアに出入りする人物の人数を解析します。人数が設定値を超えると、アラームが発生します。
- **待ち行列管理**
検出エリアを設定し、エリア内の待ち行列の状況を解析します。待ち人数や待ち時間が設定値を超えると、アラームが発生します。

3.2.1 AI 機能の設定

3.2.1.1 ライン通過人数カウント

設定したラインを基準に、検出エリアへ入る人物と出る人物をカウントします。

入場人数、退場人数、または滞在人数が設定値を超えるとアラームが発生し、設定したイベント連動が実行されます。

設定前の確認

ライン通過人数カウントを設定する前に、IVS のグローバル設定が完了していることを確認してください。

詳細については、「グローバル設定」を参照してください。

手順 1 ホーム画面で ① [AI] > ② [AI 設定] > ③ [スマートプラン] を選択します。

手順 2 ④ [人数計算] を有効 ☒ にし、⑤ [次へ] をクリックします。

手順 3 ⑥ [人数計算] を選択し、⑦ [ルールを追加] をクリックし、[人数計算] を選択します。

追加したルールが一覧に表示されます。必要に応じて、[名前] 欄からルール名を変更します。

⑧ [オン] スイッチが有効 ☒ になっていることを確認します。

補足：ライン通過人数カウントは最大 4 つのルールを設定でき、カウント結果は検出エリアごとに個別に確認できます。



手順 4 検出エリアと方向ラインを設定します。初期設定では、映像全体が検出エリアとして設定されています。

< 検出エリアの設定 >

① [検出エリア描画] をクリックし、黄色の短形枠の四隅をドラッグして検出エリアを調整します。

※初期設定エリアを削除し、エリアを新規に描画する場合の手順：

1) ② [削除] をクリック後、映像内で左クリックし、描画を開始します。

2) 続けて左クリックで頂点が追加され、描画が完了したら、右クリックで描画を確定します。

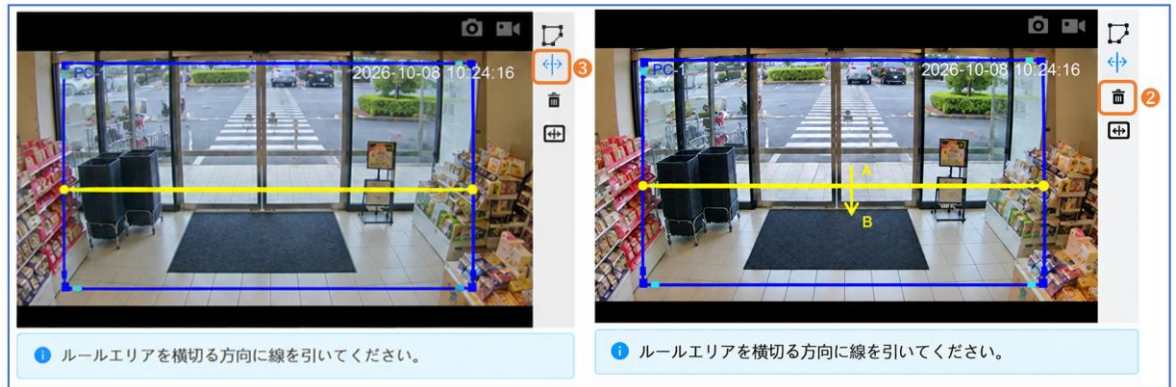


<方向ラインの設定>

- ③ [方向線]  をクリックし、方向線の端を左クリックしながら、サイズや角度を調整します。
位置を調整する場合は、方向線を左クリックしながら移動させます。

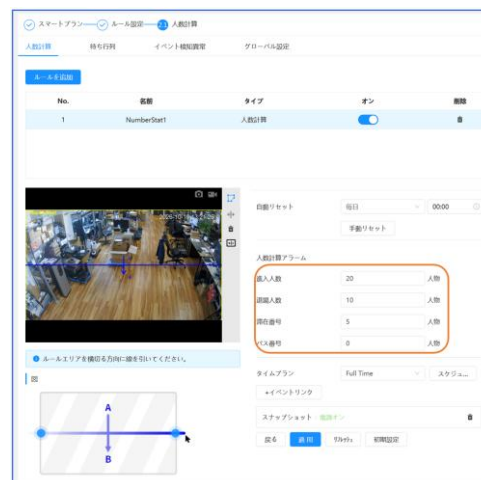
※初期設定ラインを削除し、方向線を新規に描画する場合の手順：

- 1) ② [削除]  をクリック後、映像内で左クリックし、描画を開始します。
- 2) 描画が完了したら、右クリックで描画を確定します。



手順 5 人数カウントの条件を設定します。

[進入人数] [退場人数] [滞在番号] にアラームを発生させる基準となる人数を設定します。



設定項目	説明
進入人数	A→B方向にラインを通過した人数をカウントします。設定値を超えると、アラームが発生します。
退場人数	B→A方向にラインを通過した人数をカウントします。設定値を超えると、アラームが発生します。
滞在番号	「進入人数」と「退場人数」の差から算出されます。設定値を超えると、アラームが発生します。
パス番号	設定したライン外のエリアの通過人数が設定値を超えると、アラームが発生します。
自動リセット	設定した日時に、カウントした人数を自動的にリセットします。

手順 6 動作スケジュール・イベント連動を設定します。

① [タイムプラン] から、エリア内人数カウントを動作させる時間帯を設定します。

現在のスケジュールが使用条件に合わない場合は、② [スケジュール追加] をクリックして、新しいスケジュールを設定します。

必要に応じて③ [+ イベントリンク] をクリックし、アラーム発生時に実行する連動動作を設定します。

・イベントリンク

設定項目	説明
録画	録画を開始
電子メールを送信	指定した宛先へメール通知を送信
スナップショット	静止画像を撮影
アラーム出力ポート	カメラのアラーム出力ポートから外部機器へ接点信号を出力
音声リンク	カメラ内蔵のスピーカーから警告音を再生(任意のアラーム音登録可)
送信コマンド	指定したサーバーへHTTPコマンドを送信

手順 7 設定を保存します。

設定内容を確認し、④ [適用] をクリックします。以上で、ライン通過人数カウントの設定は完了です。



3.2.1.2 エリア内人数カウント

エリア内人数カウントは、設定した検出エリア内の人数と、人物がエリア内に滞在している時間を計測する機能です。

検出エリア内の人数、または滞在時間が設定した条件を超えると、アラームが発生し、設定したイベント連動が実行されます。

設定前の確認

エリア内人数カウントを設定する前に、IVS のグローバル設定が完了していることを確認してください。

詳細については、「グローバル設定」を参照してください。

手順 1 ホーム画面で [AI] > [AI 設定] > [スマートプラン] を選択します。

手順 2 [人数計算] を有効 ☒ にし、[次へ] をクリックします。

手順 3 [人数計算] を選択し、[ルールを追加] をクリックし、[エリア人物カウント] を選択します。

追加したルールが一覧に表示されます。必要に応じて、[名前] 欄からルール名を変更します。

[オン] スイッチが有効 ☒ になっていることを確認します。

補足：エリア内人数カウントは最大4つのルールを設定でき、複数のルールを設定した場合、それぞれの検出エリアごとに人数カウントの結果を確認できます。

手順 4 検出エリアを設定します。

- ① [検出エリア描画]  をクリックし、映像内で左クリックし、描画を開始します。続けて左クリックで頂点が追加され、描画が完了したら、右クリックで描画を確定します。



手順 5 エリア内人数カウントの条件を設定します。

検出エリア内の人数や滞在時間に応じて、アラームを発生させる条件を設定します。

- ① [エリア人数計算]  のスイッチをオンにし、検出エリア内の人数に対するアラーム条件を設定します。

設定項目	説明
内部人数	アラーム判定の基準となる人数を設定します（0～80人）
タイプ	設定した人数に対する判定条件を選択します。 ※詳細は下表を参照ください。
最小期間	設定した人数の状態が何秒間続くとアラームが発報するかを設定します。（1～3600秒）
アラーム繰り返し時間	アラームを繰り返し通知する時間間隔を設定します。（0～300秒）
感度	人数検出の感度を設定します。（1～10）

・タイプ別の判定条件

タイプ	説明
≤ しきい値	エリア内の人数が、設定したしきい値以下の状態になった場合にアラーム条件を満たします。
≥ しきい値	エリア内の人数が、設定したしきい値以上の状態になった場合にアラーム条件を満たします。
= しきい値	エリア内の人数が、設定したしきい値と等しい場合にアラーム条件を満たします。
≠ しきい値	エリア内の人数が、設定したしきい値と異なる場合にアラーム条件を満たします。
しきい値A未満 または しきい値B以上	エリア内の人数が、しきい値A未満またはしきい値B以上のいずれかの条件を満たした場合にアラーム条件を満たします。指定範囲外の人数を検知する場合に使用します。
しきい値A以上かつしきい値B未満	エリア内の人数が、しきい値A以上かつ、しきい値B未満の範囲内にある場合にアラーム条件を満たします。指定範囲内の人数を検知する場合に使用します。

設定例：「内部人数」を「30」、「タイプ」を「 $\geq$ しきい値」に設定した場合、検出エリア内の人数が 30 人以上になると、人数に関するアラーム条件を満たします。

※実際のアラーム発生タイミングは、時間に関する設定などにも影響される場合があります。

注意：「内部人数」を「0」に設定し、「タイプ」で「 $\geq$ しきい値」を選択した場合、アラーム連動は実行されません。

② 「滞在アラーム」☒ のスイッチをオンにし、人物が検出エリア内に滞在する時間に応じたアラーム条件を設定します。

設定項目	説明
最小期間	人物が検知エリア内に何秒間滞在するとアラームが発報するかを設定します。(1~1800秒)
アラーム繰返し時間	アラームを繰返し通知する時間間隔を設定します。(0~300秒)
感度	滞在検出の感度を設定します。(1~10)

設定例：「最小期間」を「30 秒」に設定した場合、人物の滞在時間が 30 秒を超えると、滞在アラームの発生条件を満たします。

※「エリア人数計算」と「滞在アラーム」はそれぞれ独立して判定され、両方を有効にした場合は、いずれかの条件を満たした時点で、該当するアラームが発報します（OR 条件）。

手順 6 動作スケジュール・イベント連動を設定します。

③ 「タイムプラン」から、エリア内人数カウントを動作させる時間帯を設定します。

現在のスケジュールが使用条件に合わない場合は、④ 「スケジュール追加」をクリックして、新しいスケジュールを設定します。

必要に応じて⑤ 「+ イベントリンク」をクリックし、アラーム発生時に実行する連動動作を設定します。

手順 7 設定を保存します。

設定内容を確認し、⑥ 「適用」をクリックします。以上で、エリア内人数カウントの設定は完了です。

3.2.1.3 待ち行列管理

設定した検出エリア内の待ち人数と待ち時間を監視します。待ち人数または待ち時間が設定した条件に達するとアラームが発生し、設定したイベント連動が実行されます。

設定前の確認

待ち行列管理を設定する前に、IVS のグローバル設定が完了していることを確認してください。詳細については、「グローバル設定」を参照してください。

手順 1 ホーム画面で [AI] > [AI 設定] > [スマートプラン] を選択します。

手順 2 [人数計算] を有効 ☒ にし、[次へ] をクリックします。

手順 3 ① [待ち行列] を選択し、② [ルールを追加] をクリックし、[待ち行列] を選択します。

追加したルールが一覧に表示されます。必要に応じて、[名前] 欄からルール名を変更します。

[オン] スイッチが有効 ☒ になっていることを確認します。

補足：待ち行列ルールは最大 4 つのルールを設定でき、複数のルールを設定した場合、それぞれの検出エリアごとに人数カウントの結果を確認できます。

手順 4 検出エリアを設定します。

③ [検出エリア描画]  をクリックし、映像内で左クリックし、描画を開始します。続けて左クリックで頂点が追加され、描画が完了したら、右クリックで描画を確定します。



検出エリア内の待ち人数や待ち時間にに応じて、アラームを発生させる条件を設定します。

待ち人数によるアラームと待ち時間によるアラームは、それぞれ個別に有効・無効を設定できます。

① [行列人数アラーム] ☒ のスイッチをオンにし、検出エリア内の待ち人数に対するアラーム条件を設定します。

設定項目	説明
行列人数	アラーム判定の基準となる人数を設定します。(0～80人)
タイプ	設定した人数に対する判定条件を選択します。 ※詳細は下表を参照してください。
最小期間	人数によるアラームの判定に使用する時間を設定します。(1～3600秒)
アラーム繰返し時間	アラームを繰返し通知する時間間隔を設定します。(0～300秒)
感度	人数検出の感度を設定します。(1～10)

・タイプ別の判定条件

設定項目	説明
≤ しきい値	行列人数が、設定したしきい値 以下 の場合にアラーム条件を満たします。
≥ しきい値	行列人数が、設定したしきい値 以上 の場合にアラーム条件を満たします。
= しきい値	行列人数が、設定したしきい値と 等しい 場合にアラーム条件を満たします。
≠ しきい値	行列人数が、設定したしきい値と 異なる 場合にアラーム条件を満たします。

設定例： [行列人数] を「10 人」、[タイプ] を「≥ しきい値」に設定した場合、検出エリア内の待ち人数が10 人以上になると、人数に関するアラーム条件を満たします。

※実際のアラーム発生タイミングは、[最小期間] などの設定によって異なる場合があります。

- ② [待ち時間アラーム]  のスイッチをオンにし、人物が検出エリア内で待機している時間に対するアラーム条件を設定します。

設定項目	説明
待ち時間	アラーム判定の基準となる待ち時間を設定します。(1～1800秒)
アラーム繰返し時間	アラームを繰返し通知する時間間隔を設定します。(0～300秒)
感度	待ち時間の検出感度を設定します。(1～10)

設定例： [待ち時間] を「120 秒」に設定した場合、人物の待ち時間が120 秒に達すると、待ち時間アラームの発生条件を満たします。

※実際のアラーム発生タイミングは、機器の設定や検出状況によって異なる場合があります。

手順 6 動作スケジュール・イベント連動を設定します。

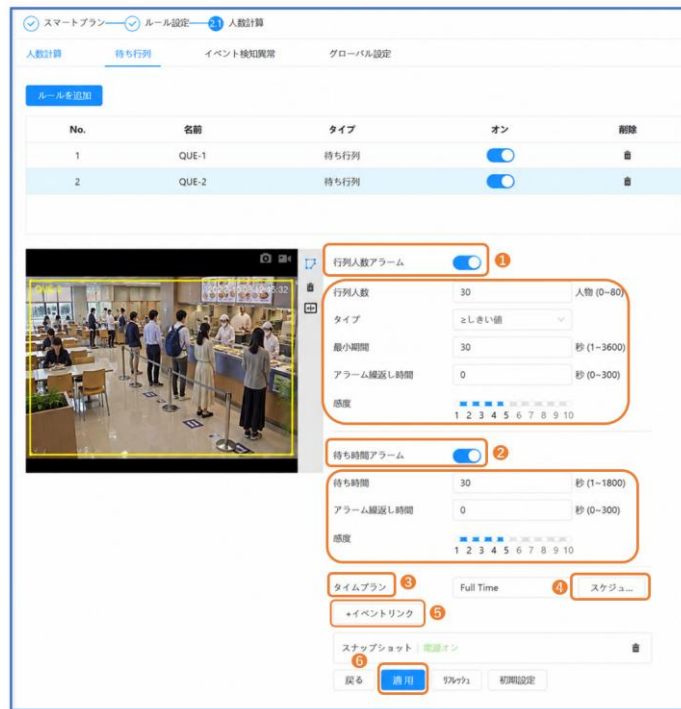
③ [タイムプラン] から、エリア内人数カウントを動作させる時間帯を設定します。

現在のスケジュールが使用条件に合わない場合は、④ [スケジュール追加] をクリックして、新しいスケジュールを設定します。

必要に応じて⑤ [+ イベントリンク] をクリックし、アラーム発生時に実行する連動動作を設定します。

手順 7 設定を保存します。

設定内容を確認し、⑥ [適用] をクリックします。以上で、待ち行列管理の設定は完了です。



3.2.1.4 グローバル設定

グローバル設定では、カメラの設置高さや設置角度、人物の検出感度などを設定します。

設置環境に合わせて適切に設定することで、人数カウント機能の検出精度を向上させ、誤検出を抑えることができます。

手順 1 ホーム画面で [AI] > [AI 設定] > [スマートプラン] を選択します。

手順 2 [人数計算] を有効  にし、[次へ] をクリックします。

手順 3 ① [グローバル設定] タブをクリックします。

手順 4 キャリブレーションを設定します。

キャリブレーションとは、カメラの設置高さや設置角度を設定し、人物を正しく検出するための基準を調整する機能です。

設定方法には、「自動」と「手動」の 2 種類があります。設置環境に応じて、いずれかの方法を選択してください。

① 自動キャリブレーション

1. [モード] で② [自動] を選択します。
2. 監視映像上に青い四角形の校正エリアが表示されます。
3. 必要に応じて、映像右側の③ [エリア描画] アイコンを使用し、平らな床面に校正エリアを設定します。
4. ④ [測定設定] をクリックし、キャリブレーションを実行します。

自動算出された設置高さや設置角度を確認します。

補足：校正エリアは、床の模様やタイルの目地など、床面の特徴がはっきり確認できる場所に設定してください。

床面の特徴が明瞭な場所を選択することで、自動キャリブレーションの成功率や精度の向上が期待できます。

また、校正エリアを設定し直す場合は、映像右側の削除アイコン  を使用して、再度エリア描画してください。

② 手動キャリブレーション

実際に測定したカメラの設置高さや設置角度を手動で入力します。

1. [モード] で ⑤ [手動] を選択します。
2. ⑥ [設置高さ] に実際に測定したカメラの設置高さを入力します。
3. ⑦ [設置角度] に実際に測定したカメラの設置角度を入力します。
4. [測定設定] をクリックし、設定内容を確定します。

補足：手動キャリブレーションでは、監視映像上に校正エリアは表示されません。校正エリアの描画は不要です。

設定項目	説明
モード	キャリブレーション方法を [自動] または [手動] から選択します。
設定高さ	カメラの設置高さを設定します。(250～1100cm)
設置角度	カメラの設置角度を設定します。(0～90°)
測定設定	選択したモードに応じてキャリブレーションを実行します。
リフレッシュ	設定画面の表示を更新します。



手順 5 検出感度の設定をします。

1. ① [感度] をクリックし、人物の検出感度を設定します。
2. 感度は ② [1～10] の範囲で調整できます。
3. ③ [適用] をクリックして、設定内容を保存します。

補足：数値を高くすると人物を検出しやすくなりますが、誤検出が増える場合があります。

反対に、数値を低くすると誤検出を抑えられる場合がありますが、人物を検出しにくくなる可能性があります。

設置環境に合わせて適切な値に調整してください。



3.2.1.5 人数カウントレポート

人数カウントレポートでは、設定した検出ルールや集計方法に応じて、人数カウントの結果を検索・確認できます。

設定前の確認

レポートを検索する前に、人数カウント機能の検出ルールが設定されていることを確認してください。

手順 1 ホーム画面から「レポート」→「人数計算」の順に選択します。



手順 2 確認したい人数カウントの種類に応じて、検索条件を設定します。

人数カウントレポートでは、以下の3種類の検出ルールから検索対象を選択できます。

① ライン通過人数カウント（人数計算）

設定した検出ラインを通過した人数の集計結果を検索します。入場人数や退場人数など、人物の移動方向に応じた集計結果を確認できます。



② エリア内人数カウント（エリア人物カウント）

設定した検出エリア内の人数や、人物の滞在時間に関する集計結果を検索します。

滞在時間を指定することで、設定した時間より短く滞在した人数と、設定時間以上滞在した人数を区分して確認できます。



③ 待ち行列管理（待ち行列）

設定した検出エリア内の待ち行列について、人数や待ち時間に関する集計結果を検索します。

待ち時間を指定することで、設定した時間より短く待機した人数と、設定時間以上待機した人数を区分して確認できます。



検索条件の設定項目

人数カウントレポートでは、検出ルールや集計方法、検索期間などを指定して、人数カウントの集計結果を確認できます。

各設定項目の詳細は、以下のとおりです。

設定項目	説明
ルール	検索対象となる人数カウントの種類を選択します。選択したルールに応じて、設定可能な統計タイプや検索条件が変わります。
統計タイプ	集計結果の種類を選択します。 ・人数： 設定した条件に該当する人数の集計結果を表示します。 ・平均滞在時間： 指定した期間における、検出エリア内の人物の平均滞在時間を表示します。[エリア人数カウント] を選択した場合に使用できます。
滞在時間関連操作	[ルール] で [エリア人数カウント]、[統計タイプ] で [人数] を選択した場合に設定します。指定した滞在時間を基準として、滞在時間が設定値未満の人数と、設定値以上の人数を区分して集計します。
待ち時間	[ルール] で [待ち行列]、[統計タイプ] で [人数] を選択した場合に設定します。指定した待ち時間を基準として、待ち時間が設定値未満の人数と、設定値以上の人数を区分して集計します。
集計時間	レポートを検索する期間を設定します。 ・人数計算： [今日] [今週] [今月] [今年] から選択できます。 ・エリア人数カウント／待ち行列： [今日] [今週] [今月] から選択できます。 いずれも開始日時と終了日時を指定して、任意の期間を検索できます。
レポート	検索対象とする検出ルール名を選択します。複数のルール名を同時に選択することもできます。

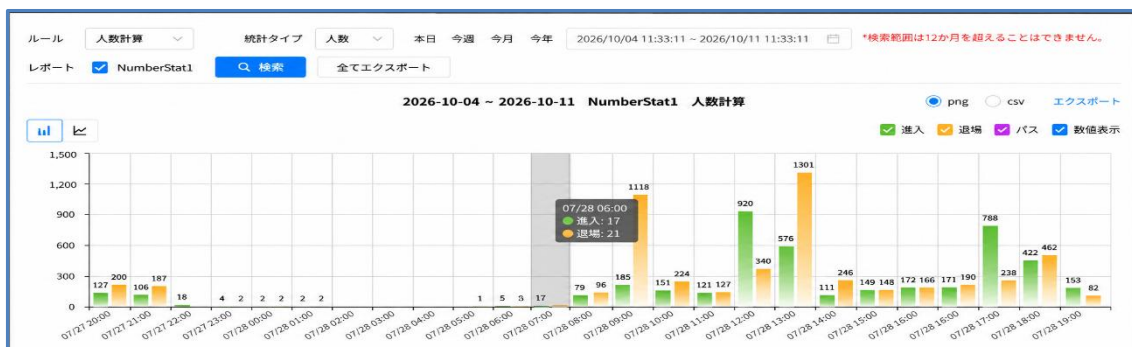
手順 3 レポートを検索します。

- [レポート] 欄で、検索対象となるルール名のチェックボックスにチェックを入れます。
- [検索] ボタンが有効になったことを確認します。
- [検索] をクリックします。
- 指定した条件に基づいて、人数カウントの集計結果がグラフで表示されます。

補足： [レポート] 欄のチェックボックスが選択されていない場合、[検索] ボタンは無効となり、検索を実行できません。

① ライン通過人数カウント（人数計算）

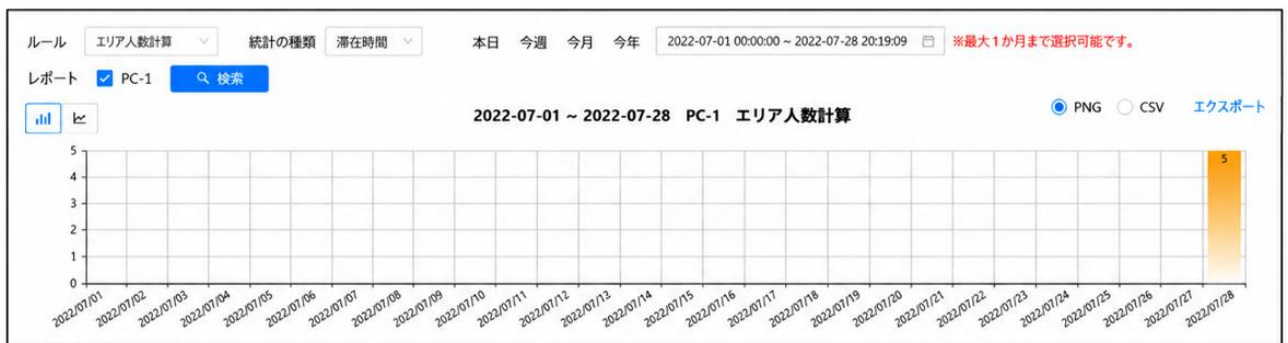
設定した検出ラインを通過した人数の集計結果を表示します。入場人数と退場人数を、それぞれグラフで確認できます。



② エリア内人数カウント（エリア人物カウント）

設定した検出エリア内の人数を集計し、結果をグラフで表示します。

設定した滞在時間を基準として、滞在時間が設定値未満の人数と、設定値以上の人数を区分して確認できます。



③ エリア人物滞在時間カウント（エリア人物カウント）

設定した検出エリア内における、人物の平均滞在時間をグラフで表示します。



④ 待ち行列カウント（待ち行列）

設定した検出エリア内の待ち行列について、集計結果をグラフで表示します。

設定した待ち時間を基準として、待ち時間が設定値未満の人数と、設定値以上の人数を区分して確認できます。



関連操作

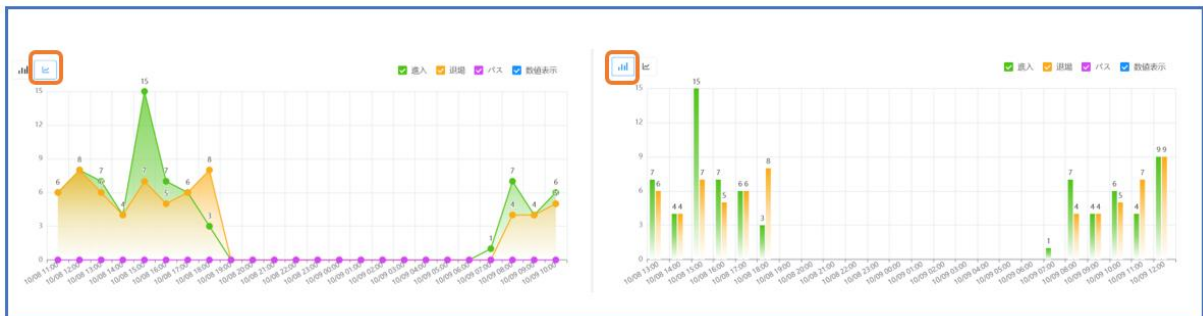
人数カウントレポートでは、集計結果の表示形式を変更したり、レポートをファイルとして出力したりできます。

① グラフの表示形式を切り替える

集計結果は、折れ線グラフまたは棒グラフで表示できます。

- [折れ線グラフ] アイコン  : 集計結果を折れ線グラフで表示します。
- [棒グラフ] アイコン  : 集計結果を棒グラフで表示します。

確認したい内容に応じて、表示形式を切り替えてください。

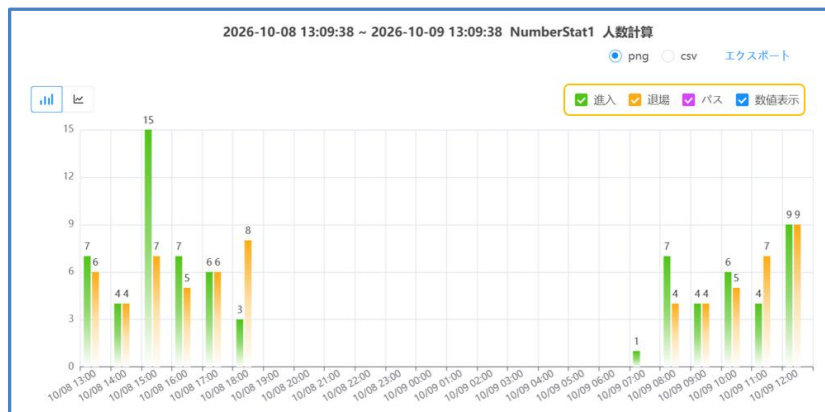


② グラフに表示する集計項目を選択する

グラフ右上に表示される集計項目のチェックボックスを使用して、表示するデータを選択できます。

チェックを外した項目は、グラフに表示されなくなります。

例えば、人数計算では「進入」または「退場」の表示を切り替えることができます。



③ レポートを出力する

集計結果を画像ファイルまたは CSV ファイルとして出力できます。

1. グラフ右上で、① [出力するファイル形式] を選択します。
2. ② [エクスポート] をクリックします。
3. 選択した形式でレポートを出力します。



出 出力形式

ファイル形式	説明
PNG	集計結果を画像ファイルとして出力します。グラフを資料や報告書に掲載する場合に適しています。
CSV	集計結果をCSV形式で出力します。Excelなどの表計算ソフトでデータを確認・集計する場合に適しています。

● CSV ファイルの出力例

CSV 形式で出力した人数カウントデータを Excel で表示した例です。時間帯ごとの進入人数・退場人数などを一覧で確認できます。

開始時刻	進入	退場	パス
2026/10/19	88	113	10
2026/10/20	124	101	0
2026/10/21	55	29	0
2026/10/22	47	34	0
2026/10/23	119	100	0
2026/10/24	0	0	0
2026/10/25	0	0	0
2026/10/26	132	112	0
2026/10/27	71	57	0

4 よくある質問

4.1 人物を検出してもアラームが作動しない

・症状

人数カウントの検出ルールを設定しているにもかかわらず、人物が検出エリアに出入りしても、カメラが人物を検出せず、アラームが作動しない。

・考えられる原因

1. 人数カウント機能が有効になっていない。
2. ブラウザの表示・操作に必要なプログラムが正常に動作していない。
3. カメラのソフトウェアが最新の状態ではない。
4. 人物検出に使用する AI 解析プログラムが正常に動作していない。
5. カメラの設置位置や撮影環境が適切ではない。
6. カメラ本体に異常が発生している。
7. 動作確認の方法が適切ではない。

・対処方法

手順 1 カメラの設置環境を確認します。

カメラの設置位置や撮影環境が、推奨される設置条件を満たしていることを確認してください。

- 逆光などにより、人物が見えにくくなっていないか。
- 障害物によって人物の一部または全体が隠れていないか。
- 人物が十分な大きさで映っており、検出に必要な画質が確保されているか。

手順 2 人数カウント機能が有効になっていることを確認します。

〔AI 設定〕 → 〔スマートプラン〕 から、人数カウント機能が有効になっていることを確認してください。

また、人数カウントの検出ルールが正しく設定され、有効になっていることを確認してください。

手順 3 ブラウザの動作環境を確認します。

ブラウザの表示・操作に必要なプログラムが正常に動作していない可能性があります。

必要に応じて、関連プログラムを削除し、ブラウザのキャッシュを消去してください。

注意： この操作は、使用しているブラウザやソフトウェアの仕様に応じて実施してください。現在のブラウザ環境では、専用プログラムの削除が不要な場合もあります。

手順 4 ソフトウェアのバージョンを確認します。

カメラのファームウェアが、メーカーの指定する適切なバージョンであることを確認してください。

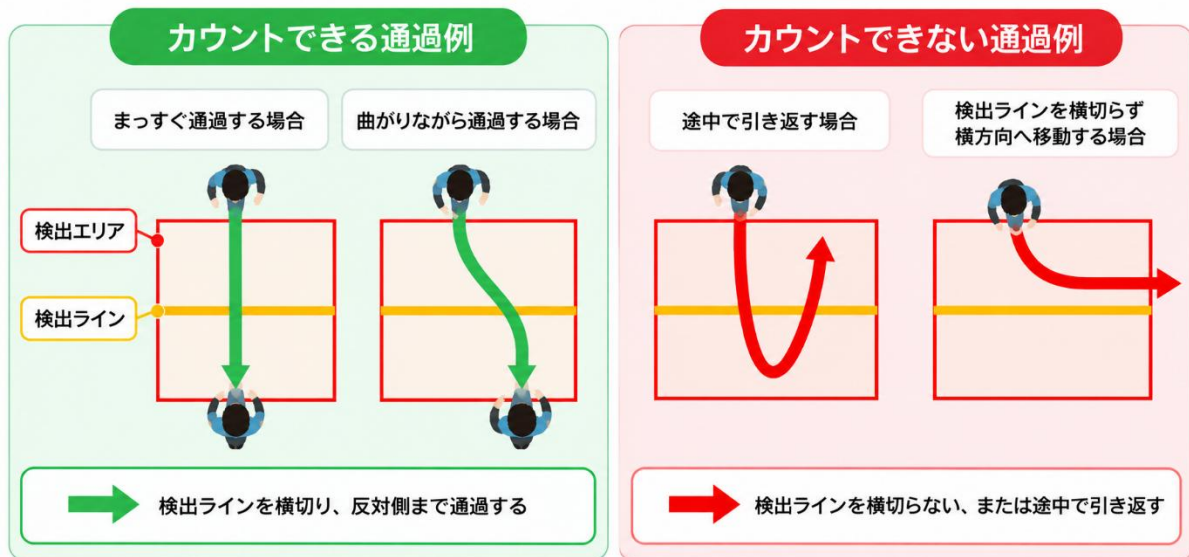
また、人物検出に使用する AI 解析プログラムが正常に動作していることを確認してください。

注意： ファームウェアの更新が必要な場合は、対象機種に対応した正規のファイルを使用してください。

手順 5 動作確認の方法を見直します。

人物が検出エリアを通過する際の移動方向や経路が、人数カウントの検出条件に適していることを確認してください。

特に、ライン通過人数カウントでは、人物が検出ラインを正しく横切るように移動する必要があります。



手順 6 改善しない場合は、販売店またはサポート窓口にお問い合わせください。

上記の対処方法を実施しても問題が解決しない場合は、カメラ本体またはソフトウェアに異常が発生している可能性があります。

製品を購入した販売店、または指定のサポート窓口にお問い合わせください。

4.2 カメラの設定が自動的に初期化される

・症状

カメラを正常に使用していたにもかかわらず、一定期間が経過すると、設定が自動的に初期状態に戻ってしまう。

・考えられる原因

1. ユーザーの操作によって、設定が初期化された可能性がある。
2. カメラ本体に異常が発生している可能性がある。

・対処方法

手順 1 ソフトウェアのバージョンを確認します。

カメラのファームウェアが、メーカーの指定する適切なバージョンであることを確認してください。

手順 2 設定が初期化された日時を確認します。

保存されている録画映像を確認し、カメラの設定が初期化されたと考えられる日時を特定してください。

その後、該当する期間のログを出力してください。

手順 3 設定変更の履歴を確認します。

手順 2 で特定した日時の設定変更ログを確認し、設定の初期化に関連する操作履歴を調べてください。
該当する操作が記録されている場合は、アクセス元の IP アドレスを控えてください。

手順 4 アクセス元を確認します。

手順 3 で確認した IP アドレスをもとに、操作を行ったユーザーや接続機器を確認してください。
意図しない設定変更や初期化操作が行われていないかを調べてください。

手順 5 セキュリティ設定を見直します。

必要に応じて、アクセスを許可する IP アドレスを制限する「許可リスト」を設定してください。
また、管理者アカウントのパスワードを変更し、不正なアクセスを防止してください。

手順 6 改善しない場合は、販売店またはサポート窓口にお問い合わせください。

上記の確認および対処を行っても原因を特定できない場合や、問題が解決しない場合は、製品を購入した販売店または指定のサポート窓口にお問い合わせください。
お問い合わせの際は、発生日時、カメラのファームウェアバージョン、関連するログなどの情報をお伝えください。

